

令和6年度第2回たつの市子ども・子育て会議

会議録（概要）

日	時	令和6年12月23日（月） 13:30～15:00
場	所	たつの市役所 多目的ホール

審議経過

1 開会

2 会長挨拶

3 たつの市こども・若者計画（令和7～11年度）素案について

4 議事

たつの市こども・若者計画（令和7～11年度）素案について

事務局より説明

たつの市こども・若者計画 素案

委員：計画に、こどもや子育てに関する相談体制について記載があるが、子が就学前は気軽に相談できるところがあった。就学後のことについては、スクールカウンセラー、学校、市役所と相談先があると思うが、どのようにすればよいのか？

担当課：本市においては、8名のスクールカウンセラーを配置している。また、学校教育課の中にも相談窓口を設けている。不登校や個別的な相談についても丁寧に対応することを心掛けている。もちろん、学校に相談していただいて、各相談先につなぐということも可能。

事務局：児童福祉課においては、こども家庭センターを令和6年4月から開設し、健康課と連携しながら妊娠期から子育てに渡る世代まで切れ目ない相談体制を整備している。その中で、民生委員から問題を抱えていると思われる家庭等の情報があれば、情報収集を行い、介入について検討し、適宜対応している。一方で、親や保護者が、孤立して一人で悩んでいるような場合等は、外部から発見されにくく、支援も後手に回りがちになるのが実情としてある。そのため、広く相談窓口等についてのPRを行うことが求められると考えている。

委員：民生委員・児童委員は相談に来てもらいたいと思っているが、なかなか相談に来ていただけないというのが実際のところであると認識している。積極的に相談に対応しようとしても、個別に訪問することが難しい現状がある。一方で、地域の方は相談したくてもどこに相談すればいいかということを意外と把握されていないことがあるように思う。

委員：アンケート結果から、市役所などの公的な相談窓口の利用割合が低く、それはこれらの相談窓口が市民にとって相談しやすいものではないからではないかという認識を持っている。また、社会生活や日常生活を円滑に遅れない状況にある方についても、決して少なくない方がそうした状況にあるということだと思う。

会長：アンケート結果から、相談相手として友人に相談するという割合が多いが、友人関係を構築するのが苦手だったりする方についても考えなくてはいけないと思う。

委員：今回のアンケートの結果を踏まえて、新たに計画に盛り込まれた内容があるかを確認したい。

事務局：アンケート結果については、計画に関連する各課にその内容を共有し、各施策や取組の内容に活用していくようにしている。

委員：施策や制度の広報に、より力を入れても良いのではないかな。

事務局：現在も子育てに関する情報を集約した冊子を作成する等して周知に努めている。また、HPもリニューアルを予定している。今後も、適宜改善を図りながら、子育て世帯等に情報を届けていきたいと思う。

委員：相談についての話があったが、こども園は親や保護者が送り迎えを行い、それに合わせて園の先生とも顔を合わせる機会も多く、関係も構築しやすいため、相談しやすい環境にあると思う。一方で、小学校で送り迎えがないということも、相談につながりにくい一因かと思う。また、小学校以後では保護者同士の関係も希薄になっている印象を受ける。

委員：不登校について、全国的に小中学生で増加しており、本市においても課題となっている。また、相談窓口についての話題があったが、そうした場所があっても、その場所でどのように相談していいかわからないような、コミュニケーションが苦手な保護者もおられると思うので、そうした方々にどのようにアプローチしていくかも課題であると思う。

委員：社会福祉協議会も児童福祉についての取り組みを進めている。例えば、ファミリーサポートセンター、子育てひろば、勉強できる場所の提供等を実施しており、多くの方に利用していただいている。その一方で、こうした集まりへの参加ができず、一人で悩んでいる方についてのサポートというのは考えていかなければならないと思う。

委員：子育てに関する相談体制や研修、講座、さらにはスポーツ活動等、こどもが幼児期のうちから地域で行われている様々な取り組みを保護者の方が知って、地域とのつながり方が分かれば、相談をしたいときにどこに頼ればいいのかというのが分かりやすいと思う。

委員：育児休業制度が改正され拡充される予定であるが、中小企業の場合、育児休業が取得しづらい状況というのは少なからずあると思うので、事業所も制度の利用促進のための環境整備に力を入れていかなければならないと思う。

委員：ヤングケアラーだけでなく、若者ケアラーという30歳未満の方々への支援や若者の生きづらさを軽減するという観点では、LGBTQについての支援についても考えていかなければならないと思う。

5 その他

パブリックコメントの実施、次回会議について

6 閉会